

## 精密工学会専門委員会・分科会案内

専門委員会は精密工学に関する技術の健全な発達を期するために、各分野における専門技術者をもって組織し、重要な課題について継続的に調査研究することを目的としており、現在は以下28の専門委員会が活動しています。参加希望の場合は、一覧記載の連絡先にお問い合わせください。なお、新たな専門委員会活動を設置する場合は、理事会での承認が必要となります。

(参考：精密工学会専門委員会・分科会紹介ページ [http://www.jspe.or.jp/shokai/senmon\\_bunka.html](http://www.jspe.or.jp/shokai/senmon_bunka.html) および専門委員会規程 [http://www.jspe.or.jp/shokai/iinkai/iinkai\\_kitei.pdf](http://www.jspe.or.jp/shokai/iinkai/iinkai_kitei.pdf) をご覧ください)

### 専門委員会

| 委員会NO. | 名称            | 設置目的および活動内容   | 1. 委員長<br>2. 委員数<br>3. 設置年  | 連絡および入会問合せ先   |
|--------|---------------|---|---|---|
| 1      | 生産自動化専門委員会    | 自動組立に関する研究・調査および情報交換・社会への啓蒙を図るため1968年に設置され、その後、生産自動化全般にわたる分野の技術動向の調査、研究を行っている。また、過去の自動化技術の変遷を編集し、今後の自動化技術の情報を発信する活動を行っている。<br>研究会：8回/年（研究例会：6回/年、研究発表会：1回/年、企業・研究所等の見学会：1回/年）                   | 1. 大隅 久<br>中央大学<br>2. 個人17名<br>法人27社<br>特別15名<br>フェロー1名<br>顧問2名<br>3. 1968.10 | 112-8551 東京都文京区春日1-13-27<br>中央大学 理工学部 精密機械工学科 大隅研究室<br>生産自動化専門委員会事務局<br>電話：03-3817-1824<br>FAX：03-3817-1820<br>seisanji@dk2.so-net.ne.jp<br><a href="http://www.seisanjidoka.sakura.ne.jp/">http://www.seisanjidoka.sakura.ne.jp/</a>                 |
| 2      | 超精密加工専門委員会    | 加工にこだわることなく、材料、加工、計測の原子・電子レベルの先端技術の開発、いわゆる高機能化原子制御製造プロセスの発展を目的とした自由な議論の場を作ることを趣旨とする。<br>研究会：約4回/年、会誌「超精密」を年1回発行   | 1. 山内和人<br>大阪大学<br>2. 個人233名<br>法人11社<br>3. 1968.11                           | 565-0871 吹田市山田丘2-1<br>大阪大学大学院 工学研究科精密科学・応用物理学専攻内<br>超精密加工専門委員会事務局<br>電話：06-6879-7284<br>FAX：06-6879-7284<br>ultra-contact@prec.eng.osaka-u.ac.jp<br><a href="http://www-up.prec.eng.osaka-u.ac.jp/pre/">http://www-up.prec.eng.osaka-u.ac.jp/pre/</a> |
| 3      | 切削加工専門委員会     | 切削加工技術の進歩向上をはかるため、被削材料、切削工具ならびに工作機械の各方面からの協力研究ならびに調査、討論を行い、機械工業の発展に寄与することを目的とする（会則第2条より）。そのため、研究会、シンポジウム等の開催、ワーキンググループによる共同実験等を行っている。   | 1. 井原 透<br>中央大学<br>2. 個人43名<br>法人21社<br>3. 1975.6                             | 112-8551 東京都文京区春日1-13-27<br>中央大学 理工学部 精密機械工学科<br>井原 透<br>電話：03-3817-1838<br>FAX：03-3817-1820<br>ihara18@mech.chuo-u.ac.jp<br><a href="http://www.jspe.or.jp/iinkai/cutting/">http://www.jspe.or.jp/iinkai/cutting/</a>                                |
| 4      | 総合生産システム専門委員会 | 知能化、高機能化、高精度化、自律分散化など総合生産システム技術に関する研究。工作機械などハードウェア技術とCAD/CAMなどのソフトウェア技術を含めて研究している。<br>委員会/見学会：5回/年、総合生産システム専門委員会報告書を年1回発行   | 1. 白瀬敬一<br>神戸大学<br>2. 個人47名<br>法人6社<br>3. 1977.4                              | 657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1<br>神戸大学大学院工学研究科 機械工学専攻<br>白瀬敬一<br>電話：078-803-6139<br>FAX：078-803-6155<br>shirase@mech.kobe-u.ac.jp  |
| 5      | 難削材加工専門委員会    | 難加工材料を主たる対象として、切削加工・研削加工・放電加工をはじめその他の加工について最新技術の探求とその公開を目的としている。委員会では研究紹介、事例紹介をはじめ、トラブルシューティングのためのディスカッション等を行い、会員相互間の情報交換が積極的に行われている。<br>委員会：4回/年、シンポジウム・国際会議：隔年開催、難削材加工専門委員会報告書：1回/年刊行         | 1. 鳴瀧則彦<br>2. 個人21名<br>法人20社<br>3. 1983.6                                     | 739-8527 東広島市鏡山1-4-1<br>広島大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻<br>山根八洲男<br>電話：082-424-7583<br>FAX：082-422-7193<br>yama@mec.hiroshima-u.ac.jp<br><a href="http://www.jspe.or.jp/iinkai/dtcm/">http://www.jspe.or.jp/iinkai/dtcm/</a>                                 |
| 8      | 画像応用技術専門委員会   | 画像技術を提供する研究者、技術者と画像を利用して製品の付加価値を高めたり、生産性向上や品質向上を図ろうとする研究者、技術者が、それぞれの立場から、研究会やワークショップなどの活動を通して、広い意味の生産活動と画像とのかかわりについて議論し、交流を深めている。<br>特別講演：1回/年、研究会：5回/年、セミナー：1回/年、ワークショップ：2回/年、シンポジウム・国際会議：隔年開催 | 1. 興水大和<br>中京大学<br>2. 個人149名<br>法人17社<br>3. 1986.9                            | 169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27 アドコム・メディア(株)<br>公益社団法人 精密工学会 画像応用技術専門委員会 事務局<br>電話：03-3367-0571<br>FAX：03-3368-1519<br>iaip@adcom-media.co.jp<br><a href="http://www.tc-iaip.org/">http://www.tc-iaip.org/</a>  |

| 委員会<br>NO. | 名称                      | 設置目的および活動内容   | 1. 委員長<br>2. 委員数<br>3. 設置年                                  | 連絡および入会問合せ先  |
|------------|-------------------------|---|---|--|
| 9          | 超砥粒ホイールの研削性能に関する研究専門委員会 | 在来砥石にとって代わる超砥粒ホイールの有効利用と普及を目指し、トラブルのない、より高度な製造、使用技術を追究する。(1) 超砥粒ホイールの使用技術の検討、(2) 超砥粒ホイール仕様工作機械についての検討、(3) 砥粒およびホイール製造技術の検討  | 1. 田辺 実<br>明治大学<br>2. 43名<br>3. 1987.12                     | 214-8571 川崎市多摩区東三田1-1-1<br>明治大学 理工学部 機械情報工学科<br>田辺 実<br>電話：044-934-7322<br>FAX：044-934-7907<br>mtanabe@isc.meiji.ac.jp   |
| 10         | 生産・経営知識学専門委員会           | ユビキタス(高度情報化)時代におけるシミュレーションを中心とした事前評価技術の高度利用について製品開発から製造まで、工場から工場群へ、製造業からサプライチェーンへといった多面的な観点から議論し、各局面における問題点を明らかにするとともに、そのソリューションを検討する。  | 1. 藤井 進<br>上智大学<br>2. 個人14名<br>法人6社<br>3. 1988.4            | 657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1<br>神戸大学 システム情報学研究科 システム科学専攻<br>藤井信忠<br>電話：078-803-6133<br>FAX：078-803-6133<br>nfujii@phoenix.kobe-u.ac.jp<br>http://kaede.cs.kobe-u.ac.jp/MBK/Public.html                              |
| 11         | 知識工学とCAD専門委員会           | 民生機器、自動車、プラント、建築、物流、医療、ソフトウェア等の各分野の専門家を招き、経営戦略、技術管理、設計支援等の問題について総合的な討論を行う。<br>講演会：約3回/年   | 1. 梅田政信<br>九州工業大学<br>2. 個人34名<br>法人3社<br>3. 1990.11         | 820-8502 飯塚市川津680-4<br>九州工業大学 大学院情報工学研究院 情報創成工学研究系<br>梅田政信<br>電話：0948-29-7774<br>FAX：0948-29-7760<br>umerin@ci.kyutech.ac.jp   |
| 12         | 成形プラスチック歯車研究専門委員会       | 【設置目的】：成形プラスチック歯車の技術開発、技術向上を目的として成形プラスチック歯車の精度・騒音・強度の性能向上、生産技術に関する調査研究、開発研究を行う。【活動内容】：研究会：5回/年、見学会：1回/年、特別講演：1回/年、講習会：1回/年、会報：4回/年。【小委員会】：強度、騒音、強度規格の小委員会活動を行う。【最近の発行図書】：2005年「歯車強度評価事例集」発行。2008年「15周年記念誌」発行。2009年「プラスチック歯車騒音の基礎と実際」発行。                       | 1. 小出隆夫<br>鳥取大学<br>2. 個人19名<br>法人33社<br>3. 1991.9           | 552-0007 大阪市港区弁天1-2-1 ベイタワー2510<br>成形プラスチック歯車研究専門委員会 幹事<br>上田昭夫<br>電話：06-6576-3519<br>FAX：06-6577-1554<br>ueda@amtecinc.co.jp<br>http://www.amtecinc.co.jp/pla/index.html                                    |
| 13         | マイクロ/ナノシステム研究専門委員会      | マイクロ/ナノシステム(MNS; Micro/Nanomechanisms, Micro/Nanorobots, Micro/Nanomachines, Micro/Nano Optical Systems, MEMS/NEMS等)の実現方法を探る。(1) 検討会/2カ月でMNSの問題点をまとめデータ集を作る。(2) MNSの製作に必要な材料、部品の収集、幹旋システムを作る。(3) 本学会の国際マイクロメカニズム(MM)コンテストおよびIFTtoMMのMicroMachine技術委員会をサポートする。 | 1. 堀江三喜男<br>東京工業大学<br>2. 個人44名<br>法人9社<br>3. 1992.10        | 226-8503 横浜市緑区長津田町4259-R2-14<br>東京工業大学 精密工学研究所 (R2-214)<br>堀江三喜男<br>電話：045-924-5048<br>FAX：045-924-5977<br>mahorie@pi.titech.ac.jp<br>http://www.cc.toin.ac.jp/sc/hayashi-lab/                               |
| 14         | 生産原論専門委員会               | 生産技術史分科会、感性に関する産学協同分科会の終了後それらを基盤として本専門委員会は1993年発足した。1) 生産の歴史と将来、2) 生産に果す人間の役割、3) 生産と環境、4) 生産哲学確立を通じて生産原論体系の樹立を目標として、学術講演会、シンポジウム、例会など活発な活動を続けている。   | 1. 伊藤昌樹<br>関東職業能力開発大学校<br>2. 個人34名<br>名誉4名<br>3. 1993.5     | 323-0813 栃木県小山市横倉三竹612-1<br>生産原論専門委員会事務局<br>上坂淳一<br>電話：0285-31-1721<br>FAX：0285-31-1788<br>jl.uesaka@ehdo.go.jp  |
| 15         | 超精密位置決め専門委員会            | nm-pm精度、分解能の位置決めのほか、 $\mu\text{m}$ レベル精度の位置決めの高速度も扱う。年5回の定例会、うち1回は見学を兼ねた地方定例会を開催。また、設立当初から2009年度までの定例会前刷集をDVDにデータ化し、委員に配布した。その他、(1)「位置決め技術国際会議」を隔年に開催している(開催国は日本、韓国、台湾)。(2)春秋の大会では位置決めOSを行っている。小委員会：メカニズムと制御、ニューアクチュエータ、センサ、文献調査、アンケート                        | 1. 吉本成香<br>東京理科大学<br>2. 個人45名<br>法人50社<br>名誉2名<br>3. 1993.9 | 102-0073 東京都千代田区九段北1-14-6<br>東京理科大学 工学部 機械工学科 吉本研究室<br>超精密位置決め専門委員会事務局<br>電話：03-5228-8360<br>FAX：03-5213-0977<br>yosimoto@rs.kagu.tus.ac.jp<br>http://www.me.toyota-ct.ac.jp/~mhome/ultraprecision/index.htm |
| 16         | 医療福祉工学専門委員会             | 医療・福祉機器の研究開発を対象に、本分野の大学、企業、および実務者間の情報交換と学術交流を行う。具体的活動は春季・秋季大会の特別セッションの企画、関連学会とのシンポジウムの企画、見学会等である。関連分野における国際シンポジウムを国内外の関連学会と協力して隔年に開催する。   | 1. 佐久間一郎<br>東京大学<br>2. 22名<br>3. 1993.2                     | 270-1382 印西市武西学園台2-1200<br>東京電機大学 情報環境学部 情報環境学科<br>鈴木 真<br>電話：0476-46-8028<br>FAX：0476-46-8449<br>msuzuki@sie.dendai.ac.jp   |

| 委員会 NO. | 名称                         | 設置目的および活動内容   | 1. 委員長<br>2. 委員数<br>3. 設置年   | 連絡および入会問合せ先   |
|---------|----------------------------|---|--|---|
| 17      | 知能メカトロニクス専門委員会             | 日本の産業技術の中核であるとともに、地域が抱える問題解決への基礎技術ともなり得る知能メカトロニクス技術を研究・発展させるのが目的である。総会、講習会、研究会の開催、知能メカトロニクスWSの主催、QCAV、日仏メカトロニクスWS、日中メカトロニクスWS等の国際会議への共催、協賛、共同企画等の活動を行っている。  | 1. 白井文夫<br>四国計測工業(株)<br>2. 個人 22 名<br>法人 11 社<br>3. 1996.7         | 761-0326 香川県高松市林町 2217-20<br>香川大学 工学部 知能機械システム工学科<br>秦 清治 (幹事)<br>電話：087-864-2320<br>FAX:087-864-2460<br>hata@eng.kagawa-u.ac.jp  |
| 19      | 型・模型専門委員会                  | 製品開発に不可欠な金型・簡易金型を研究対象とし、それらの生産性の向上と高付加価値化を図るための固有技術(設計・加工・RP・計測・解析)とコンピュータ援用技術の共同開発研究・調査研究を行う。  | 1. 鈴木 裕<br>九州工業大学<br>2. 個人 12 名<br>法人 15 社<br>名誉 1 名<br>3. 1998.2  | 187-0035 東京都小平市小川西町 2-32-1<br>職業能力開発総合大学校 東京校<br>千葉正伸<br>電話：042-346-7438<br>FAX:042-344-5609<br>chiba@tokyo-pc.ac.jp  |
| 20      | プラナリゼーション CMP とその応用技術専門委員会 | 次世代の超 LSI デバイスを想定して、そのプロセスにおける STI、層間絶縁膜、配線金属等のプラナリゼーション加工/CMP 技術の確立と他分野への応用を探索。(1) Cu/Low-k のグローバル平坦化加工・装置化技術 (2) 超精密清浄化技術 (3) 加工中計測と精密評価技術 (4) 次世代デバイス化と評価技術 (5) CMP 加工の応用技術 (6) その他。また、本研究会の活動を世界に発信すべく、出版事業と HP を常時更新しつつ、国際会議 (PacRim を改め、International Conference on Planarization Technology, ICPT) を設立・主導している。 | 1. 檜山浩國<br>(株) 荏原製作所<br>2. 201 名<br>3. 1998.2                      | 104-0043 東京都中央区湊 1-2-10 堀川ビル 3F<br>グローバルネット(株)内 プラナリゼーション CMP 委員会(略称)事務局<br>三上博子<br>電話：03-5117-2225<br>FAX:03-5117-2223<br>mikami@global-net.co.jp<br>http://www.planarization-cmp.org/ |
| 21      | ライフサイクルエンジニアリング専門委員会       | 環境問題を考慮した循環型製品・設備のライフサイクルに関して以下の視点から検討している。(1) 製品・設備ライフサイクルの設計・管理方法、(2) 環境調和型製品・設備の設計・生産法、(3) 製品・設備ライフサイクル評価のためのライフサイクルシミュレーション、(4) 循環型ビジネスモデルの企画、評価。   | 1. 高田祥三<br>早稲田大学<br>2. 個人 38 名<br>法人 4 社<br>3. 2001.2              | 169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1<br>早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科<br>高田祥三<br>電話：03-5286-3299<br>FAX:03-3202-2543<br>takata@waseda.jp<br>http://www.jspe-lce.mech.eng.osaka-u.ac.jp/                    |
| 22      | 転がり機械要素専門委員会               | 本専門委員会は、回転軸受やリニアベアリングやボールねじなどいわゆる転がり機械要素に関するメカとユーザおよび研究機関各方面からなる会員相互の情報交換の場を作り、重要課題について調査研究、討論を行い、精密工学とその関連業界の発展に寄与することを目的としている。  | 1. 清水茂夫<br>明治大学<br>2. 個人 60 名<br>法人 27 社<br>3. 2001.2              | 214-8571 川崎市多摩区東三田 1-1-1<br>明治大学 理工学部 機械情報工学科 信頼性工学研究室<br>清水茂夫<br>電話：044-934-7241<br>FAX:044-934-7241<br>shinrai@isc.meiji.ac.jp  |
| 23      | MEMS 商業化技術専門委員会            | 光 MEMS、バイオ/化学 MEMS、RF-MEMS などの新しい応用を視野に、リソグラフィ技術の低コスト化・フレキシブル化や、アセンブリ・パッケージによるシステムの高度化、それらのプロセスの低コスト化などの MEMS 商業化を指向した技術についての調査研究活動を行う。   | 1. 前田龍太郎<br>(独)産業技術総合研究所<br>2. 63 名<br>3. 2003.2                   | 305-8564 茨城県つくば市並木 1-2-1 つくば東事業所内<br>(独)産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門 ネットワーク MEMS 研究グループ<br>伊藤寿浩 (幹事)<br>電話：029-861-7027<br>FAX:029-861-7167<br>toshihiro-itoh@aist.go.jp                      |
| 24      | メカノフォトンクス専門委員会             | 本委員会はメカノフォトンクスの概念のもとに、アカデミックでありつつも精密工学会専門委員会として、特定分野・従来の光学技術にとらわれることなく、産官学の連携研究における実務的対応も視野に入れたテーマを対象として活動している。定期的な委員会、シンポジウムの開催ならびに出版事業により積極的に情報発信を行っている。また、関連する企業間・委員会メンバー間の情報交換により関連分野の発展に寄与するよう活動を展開している。   | 1. 野村 俊<br>富山県立大学<br>2. 個人 41 名<br>法人 2 社<br>名誉 1 名<br>3. 2003.2.1 | 321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2<br>宇都宮大学 オプティクス教育研究センター<br>大谷幸利<br>電話：028-689-7136<br>FAX:028-689-7136<br>otani@cc.utsunomiya-u.ac.jp  |
| 25      | ナノ精度機械加工専門委員会              | 本専門委員会は、ナノオーダーの超平滑な表面ならびにナノ精度の 3 次元形状を有する構造体や機能性インターフェースを創成するためのナノ精度機械加工技術ならびに M4 プロセス (Micro/Meso Mechanical Manufacturing) 技術に関して、各方面から協同開発研究、調査研究、討論を行い、精密工学とその関連業界の発展に寄与することを目的とする。   | 1. 厨川常元<br>東北大学<br>2. 個人 21 名<br>法人 32 社<br>3. 2004.2.1            | 980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01<br>東北大学 大学院 工学研究科 機械システムデザイン工学専攻<br>厨川常元<br>電話：022-795-6948<br>FAX:022-795-7027<br>tkuri@m.tohoku.ac.jp<br>http://pm.mech.tohoku.ac.jp/                     |

| 委員会<br>NO. | 名称                 | 設置目的および活動内容   | 1. 委員長<br>2. 委員数<br>3. 設置年                                       | 連絡および入会問合せ先  |
|------------|--------------------|---|--|--|
| 27         | 現物融合型エンジニアリング専門委員会 | 3次元形状スキャニング技術（産業用 X 線 CT や 3次元サーフェススキャナー）の進歩により、現物をデジタル化し、その情報をデジタルエンジニアリングシステムで活用する新しい設計・生産手法の開発が期待されている。本専門委員会では、この課題に関心の高い、産業界や学界の研究者・技術者を委員として、技術の調査・検討、技術課題抽出、情報交換等の委員会活動を通じ、本分野の技術進歩・活性化に資することを目的とする。 | 1. 松木則夫<br>(独) 産業技術総合研究所<br>2. 個人 38 名<br>法人 26 社<br>3. 2004.2.1 | 305-8568 茨城県つくば市梅園 1-1-1<br>(独) 産業技術総合研究所 産学官連携推進部門<br>松木則夫<br>電話：029-862-6141<br>FAX: 029-862-6148<br>matsuki.n@aist.go.jp<br><a href="http://www.den.rcast.u-tokyo.ac.jp/conv/">http://www.den.rcast.u-tokyo.ac.jp/conv/</a>   |
| 29         | マイクロ生産機械システム専門委員会  | 加工機械のマイクロ化分科会における調査・分析から、マイクロ生産機械システムの必要性と実現可能性が明らかになった。そこで、関連技術開発・実用化の加速的推進を図るために、(1) 関連情報の収集、(2) 関連技術データの整備、(3) 応用分野における課題の明確化を行い、生産技術の新たな展開を図る。  | 1. 岡崎祐一<br>(独) 産業技術総合研究所<br>2. 個人 13 名<br>法人 10 社<br>3. 2005.2   | 251-8511 神奈川県藤沢市辻堂西海岸 1-1-25<br>湘南工科大学 工学部 機械デザイン工学科<br>木村広幸<br>電話：0466-30-0314<br>FAX: 0466-30-0316<br>kimura@md.shonan-it.ac.jp  |
| 30         | 知的ナノ計測専門委員会        | 「ものづくり」における知的ナノスケール計測技術の体系化のために、知的計測手法、ナノスケール加工計測技術、ナノスケール計測標準化の3つのコア計測技術の確立を行います。このコア計測技術を産官学の共同研究により、産業界における「ものづくり」へ適用し、この成果をナノスケール生産基盤として方向付けることで、この分野の日本の有利さをより拡大し、精密工学の発展に寄与することを目指します。                | 1. 高増 潔<br>東京大学<br>2. 個人 35 名<br>法人 11 社<br>3. 2006.2            | 113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1<br>東京大学大学院 工学系研究科 精密機械工学専攻 高増・高橋研究室 知的ナノ計測専門委員会事務局<br>野本あゆみ<br>電話：03-5841-6451<br>FAX: 03-5841-8553<br>nomoto@nanolab.t.u-tokyo.ac.jp<br><a href="http://www.nanolab.t.u-tokyo.ac.jp/nano-measure/">http://www.nanolab.t.u-tokyo.ac.jp/nano-measure/</a> |
| 31         | 微細加工と表面機能専門委員会     | 各種微細加工法の開発に合わせ、これらを活用して表面に微細構造を設けることで摩擦や濡れ、あるいは光学特性を調整した「機能表面」に対する期待が高まっている。本専門委員会では、マイクロ・ナノ加工技術の整理・体系化、および機能表面設計法の整理・体系化を最終目標とし、3カ月に1回程度の例会を開催し、委員会内外のエキスパートの講演を通じた情報交換や研究施設見学を実施している。                     | 1. 諸貫信行<br>首都大学東京<br>2. 個人 24 名<br>法人 4 社<br>3. 2008.2           | 191-0065 東京都日野市旭が丘 6-6<br>首都大学東京 システムデザイン学部<br>諸貫信行<br>電話：042-585-8442<br>FAX: 042-583-5119<br>prost@sd.tmu.ac.jp<br><a href="http://www.jspe.or.jp/iinkai/prost/">http://www.jspe.or.jp/iinkai/prost/</a>   |
| 32         | 静岡県東部精密技術専門委員会     | 静岡県東部地区において、地域産業に関係した精密工学技術を取り上げ、会員相互の技術交流を通じてその技術の向上を図ることを目的とする。<br>特別講演会：1回/年、研究会：3回/年、見学会：3回/年   | 1. 相良 誠<br>沼津工業高等専門学校<br>2. 法人 25 社<br>3. 1990.6                 | 410-8501 静岡県沼津市大岡 3600<br>沼津工業高等専門学校 制御情報工学科 教授<br>相良 誠<br>電話：0559-26-5704<br>FAX: 0559-26-5704<br>sagara@numazu-ct.ac.jp  |
| 33         | 静岡県西部地区精密技術専門委員会   | 静岡県西部地区において、地域の産業に係る精密工学技術を取り上げ、会員相互の技術交流を通じて、その高度化および新技術の創出に資することを目的とする。<br>特別講演会：1回/年、講演会：4回/年、見学会：2回/年   | 1. 三浦憲二郎<br>静岡大学<br>2. 個人 3 名<br>法人 33 社<br>3. 2000.6            | 432-8561 浜松市城北 3-5-1<br>静岡大学 工学部 機械工学科<br>鈴木康夫<br>電話：053-478-1040<br>FAX: 053-478-1044<br>tmysuzu@ipc.shizuoka.ac.jp   |

## 分 科 会

| 委員会<br>NO. | 名称                 | 設置目的および活動内容  | 1. 委員長<br>2. 委員数<br>3. 設置年                | 連絡および入会問合せ先   |
|------------|--------------------|--|---|---|
| B02        | サイバーフィールド構築技術研究分科会 | 大規模環境の3次元計測データから、ユーザが業務で利用可能な構造化されたモデルへの変換技術である「サイバーフィールド構築技術」に焦点をあて、業務として計測やモデル化に携わる民間企業から現場のニーズを広く調査するとともに、大学で実施されている中長距離計測技術、大規模3次元環境データ処理アルゴリズム、サイバーフィールド構築技術の基礎研究成果を企業へ紹介し、当該技術を活用して効率的に業務を進めるための産学共同研究テーマを多角的に検討することを目的とする。研究情報交換会および国内外の技術調査報告会（数回）、春秋学術講演会オーガナイズドセッション企画およびシンポジウムの企画開催（2011秋季大会）、他学会との共同セミナー等の企画、単行本執筆等。 | 1. 金井 理<br>北海道大学<br>2. 46名<br>3. 2010.2.1 | 060-0814 札幌市北区北14条西9<br>北海道大学 大学院情報科学研究科 システム情報科学専攻 システム情報設計学研究室<br>伊達宏昭<br>電話：011-706-6447<br>hdate@ssi.ist.hokudai.ac.jp<br><a href="http://www.sdm.ssi.ist.hokudai.ac.jp/jspecf/">http://www.sdm.ssi.ist.hokudai.ac.jp/jspecf/</a> |

### 分科会活動のご案内

分科会は精密工学に関する技術の健全な発達を期するため、各分野における専門技術者をもって組織し、将来の先行技術として重要な題目について特定の期間内（2年間）に調査研究することを目的とするもので、年度ごとにその運営費20万円が支給されます。新領域開拓をめざして新しい分科会設置をお考えください。

申請については、研究計画書、予算書、委員名簿を会長に提出してください。理事会での承認を経て正式な設置となります。

詳しくは、下記事務局までお問合せください。

**【お問合せ先】** 公益社団法人 精密工学会 事務局 研究・国際交流担当  
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-9 九段誠和ビル内  
電話：03-5226-5191 FAX：03-5226-5192  
E-mail：jspe\_jigy@jspe.or.jp